

入 試 年度	2026 年度	入試時期	I 期入学試験	実施日	2025 年 9 月 17 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	英文学専攻
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英 語	
「解答」または「解答例」及び「出題の意図」					
[I]					
【出題の意図】 民族的・宗教的・生活様式的に独特の多様性を有するシンガポールについて書かれた 2020 年の比較的容易な英文（著作権保護あり）を出題し、下線部のみの和訳を求めることで、英語の基本的読解力を評価することが狙いです。					
【採点時の観点】 文体や語彙の点で、文芸翻訳調の「こなれた」和訳は必ずしも求めません。あくまで 1) 構文理解、2) 文脈に沿った語義選択技術、3) 当該一節の文脈・状況の理解が充分推量できる程度の日本語訳能力——を評価しました。					
[II]					
【出題の意図】 アフリカ系アメリカ人の英語について書かれた 2022 年の比較的容易な英文（著作権保護あり）を出題し、下線部のみの和訳を求めることで、英語の基本的読解力を評価することが狙いです。					
【採点時の観点】 文体や語彙の点で、文芸翻訳調の「こなれた」和訳は必ずしも求めません。あくまで 1) 構文理解、2) 文脈に沿った語義選択技術、3) 当該一節の文脈・状況の理解が充分推量できる程度の日本語訳能力——を評価しました。文中の Beryl Bailey 氏のジャマイカ英語に関する見解が、文意にそった日本語に直されているかが最大のポイントとなります。					
[III]					
【出題の意図】 「ストーリーにはメッセージがある」という考えをめぐる考察をした 2009 年の比較的容易な英文（著作権保護あり）を出題し、下線部のみの和訳を求めることで、英語の基本的読解力を評価することが狙いです。					
【採点時の観点】 文体や語彙の点で、文芸翻訳調の「こなれた」和訳は必ずしも求めません。あくまで 1) 構文理解、2) 文脈に沿った語義選択技術、3) 当該一節の文脈・状況の理解が充分推量できる程度の日本語訳能力——を評価しました。行為としての「物語り」が、社会的存在としての個人にとって何を可能にする「道具」であるのか、またそのような観点から見た「ストーリー」が「メッセージ」とはどう違うのか——この 2 点が、文意にそった日本語に直されているかが最大のポイントとなります。					

[IV]

【出題の意図】 博士前期課程での研究計画を 200 語程度の英語で記述せよという問題です。博士前期課程での研究に求められる最低限の英語のライティング技術の有無を評価することが狙いです。

【採点時の観点】 高度な学術的英文スタイルは求めません。1) 平易かつ簡潔な英語であること、2) 英語ライティング上の最低限の文法運用能力が認められること、3) ライティングにつかえるレジスターの語彙力、綴り力が認められること、4) 簡単かつ論理的な文章を英語で書けること——を評価しました。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミッションポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミッションポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。